
Phendel - Tales of the Dragon -

もふ羊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Phenomenal Tales of the
Dragon -

【ZINE】

N 8 1 8 0 M

【作者名】

もふ羊

【あらすじ】

遙か古の時代、神が起こした戦いにより世界は二つに分かたれた。表側のウルナルドに裏側のフェンデルド。
古い唄によれば東と西の海の境、表と裏を分けるその境界に太古の神が眠ると言つ。

小編小説。

分かたれた世界のおはなし（前書き）

「Tale of the Dragon」シリーズ 設定の核的な短編。

分かたれた世界のおはなし

「おばあちゃん、昔は今よりずっとたくさん魔物がいたって本当？誰もが魔法使いだつたつて本当？僕も魔法使いになりたいなあ！そして龍に乗つて空を飛ぶんだ！」

村の学校から帰るなり鞆を投げ出し息せき切つて飛びつく孫を、糸紡ぎの手を休めた老婆は田を細めて見やつた。

「ああ、そうだとも。昔はもっと世界に魔法が満ちていたんだよ。なんてたつて、龍神さまははずつと我々の世界と近しかつたからね」「龍神さま！」子どもは真つ青な双眸を輝かせた。「なんて素敵なんだろ？」「びりり！」

しかしあやあつて彼は首を傾いだ。

「おばあちゃん！ 龍神さまって本当にいるの？ 隣の子がそんなのおどきげなしだと言つていたよ」

老婆は小さく首を振ると苦笑いを零した。

「そんな罰当たりなこと言つてはいかんよ。お伽噺なんかじやあないさ。

私のひこばあちゃんが言つていたね。水龍神さまの聖地に巡礼に行つたら運よくその姿を見れたつて」

「おばあちゃんは見たことないの？」

老婆は節くれだつた指で再び糸を繕りはじめた。「ないね。できれば一度は拝みたいけどね」

「その昔は今より魔法も強かつたし、私のお母さん あんたのひいばあさんの代までは魔法使いだつたさ。もつともつと人と魔法の世界は近かつたんだ」

「魔法が弱くなつて龍神さまはいなくなつちやつたの？」

「もちろん今だつて龍神さまはどこかにいらっしゃるさ。ただ、我々人間の近くにいらっしゃらないだけで」

ふうん、と生返事をした少年はこてんと老婆の足元に座り込んだ。少年が生まれる前までは呪いを売っていたという祖母も今ではすっかりただの老人だ。

「どうして父さんからは魔力がなくなつたの？ 今は魔法使いなんていらないんでしょ？」

かつてはさやかながらも魔法使いを生業としていた家であったが、代を重ねるごとに力は衰え、ただの呪い師として生計を立てた老婆の息子の代からは別の職業へと変わつた。少年の両親は薬屋を営んでいる。

しかしこれはこの大陸にあって、特に珍しいことでもなかつた。近所の魚屋でさえ系図を遡れば、遠い昔は街で名の知れた一流の魔法使いの血筋だったというのだから。

「この街にいなつてだけで、いるにはいるさ。都に行けば魔法使いの養成学校があるよ。

でもそれでも。昔よりずっと減つてはいる。それにはね、呪いが関係しているんだよ」

「呪い？」少年は首を伸ばした。「呪いつて？」

青い瞳が期待に大きくなる。

老婆は一息ついて窓の外に目を向けると、「そう、呪いさ」と、低く囁いた。

「ずっとずっと昔、本当に昔の昔、創造神さまがお告げなさつた呪いがね」

人間の時代が始まるより遙か昔

創造神ゲイヤは世界を生んだ

光と闇にこれを分け 対の龍かみに命を吹き込んだ

光はウルフエ 闇はネルド

一つは一つ 共に交わり四人の子どもを生み出した

風はウェルデラ 陽気で氣まぐれな光の龍
土はグラニードラス 頑固で無口な闇の龍
炎のファイエル 強氣で我儘な光の龍
水にエルティアナス 穏やかで眞面目な闇の龍

ゲイヤの祝福身に受けて、家族は世界を作り出す
長い長い時をかけ 豊かな世界を育んだ
それでもずっとうまくはゆかなかつた

はじめは仲良くしていただが、あるとき仲違いをはじめた四兄弟
炎のファイエルは支配権求めて兄弟を虐げだし
風は逃れ、土は隠れ、水が対抗し立ち上がる
闘うこと四十日四十夜

劣勢になつた水を見て、逃げた風が舞い戻る
水に与した風により 嵐は一層酷くなり

大火事、大風、大洪水

ついには怒つた土の大地震

荒ぶる神々にいきものたちは脅かされ、世界は崩壊しあじめたのだ

これを見た両親、ウルフェとネルド
創造神ゲイヤに助けを求めた
するとゲイヤは光と闇に命じ 世界を一つに分けてしまう
世界の表側へいきもの集め
裏側へ四兄弟をおしゃつた

表は光と闇が統べる世界
裏は四兄弟の荒らした世界
東と西の海の境、光と闇は鍵をかけ 誰をも通さぬよつこした
あちら側はウルネルド

四兄弟の世界はフーンテルド

「」して世界は分かたれた

フーンテルドは四つ柱の龍が治める世界 四龍神の護る世界となつた

ゲイヤは罰をとえて彼らの寿命を千年とし
その終わりに灰とすよう命じた

灰から新たに生まれて代替わり 記憶のみを継承して務めに専念
するように、と

それでも記憶に縛られ いがみあう龍神たち
時折鬪いをはじめては、世界に災いもたらしてきたのである

これに対しひげやは再び身を起こし 四龍神に呪いをかけた
いついつまでも憎しみ合いを続けるならば やがて時が満了した
その時に

汝ら世界に吸收され 永遠に消滅せん、と

おくる

光と闇は世界の境で柱となり

子らが真の務めに目を向けるその時まで

覚めぬ眠りにつくだろう

それでも美し愚かな龍たちは互いに憎み敵対し
歩み寄ることなどないままに 千代の時が過ぎ
表のウルナルドには神が失せ 裏のフーンテルドはゲイヤの呪い
が漸進し

やがて神々は少しづつその力を失いはじめ 世界に満ちていた魔
法はそれと共に衰退していったのだとさ

これが今我々が住まう世界なのだよ、と老女は少年に語つた。

「呪いによると、龍神さまはいなくなつちゃうの？」

「伝説によるとそうだね。でもあたしはただの作り話じゃないと思つてゐるよ。現に魔法は減り続けているし、龍神様もとんと姿をお見せにならなくなつた。

今はそんな話ないけどね、500年前まではまだ龍神さまも荒ぶる神だつたんだよ」

「知つてるよ！ 火の神さまが世界で大暴れしたんじょう？ それを伝説の勇者が倒したんだ！」

興奮に目を輝かせた少年に老婆はくすくすと笑つた。

「そうさ。あんたには何度も聞かせてやつたね。火龍神を封じた大剣士リュークウェッドの伝説さ。ずっと東南の砂漠の国へ行けば封印された火の神さまを見れるって話だよ」

「火龍神さまは死んでるの？」

「龍神さまは不死身だよ。でも呪いでいつか死んでしまうのかもしれない。それでもまだ世界に魔法使いが残つてゐるうちは、龍神さまも生きていらつしやる。魔法使いの力つていうのは龍神さまが源だからね。それにほら、半龍の一族だつてまだ絶えてないだろう」少年は思い出したように叫んだ。

「海の向こうのマリアーノ人だよね！ 僕のじ先祖さまにもいたんでしょ？」

老婆は頷いて少年の頭を撫でた。

「ああそうさ。生糸の半龍の人たちよりは綺麗じやないが、あんたの目の色は貴重なしるしなんだよ」

そう告げる老婆の濁つた両眼も海の青の名残があつた。

「他にも南のシルワノに、北はワインデル、東にアスルダナがいる。あれは今もまだ太古の力を受け継ぐ人々。古い種族なんだよ」

龍の血を身に受けた者はその瞳に証を宿す

水は青なら風は紫

火の赤に土の金

「いいなあ…かつこいいなあ…」

「そんなにいいもんでもないさ。お前やあたしたちはだいぶ血が薄れてるから普通だけどね、あの人たちは珍しい姿をしていることがほとんどだつて言うんで、人買いに攫われたり…」

中立とは言われてるけどね、その不思議な力のせいで実際は隣り合う国々からつけ狙われているんだよ。…このフェンデルドに魔法は消えつつある今はなおさら、物珍しくなつてくるからね

「そんなの！ 誰か守つてあげないの？」

「人間てのは自分と違う生き物に厳しいんだよ。あの人たちは自分たちで自身を守るしかない」

龍神さまが守ってくれた時代はもう過ぎ去つて久しい、と老婆は首を振る。

「でもそれもいつかは消えうせるもんなんだろう。伝説の通り、仕方ないさね。

竜神さまたちは仲たがいを続けたままなのさ。どうしても風と土、火と水は相反しあう関係だからね」

きっと龍神さまたちも分かっておいでなのさ。今が、黄昏の時代だということを

分かたれた世界のおはなし（後書き）

老婆が語る神話。オチはないです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8180m/>

Phendel - Tales of the Dragon -

2010年10月8日13時58分発行